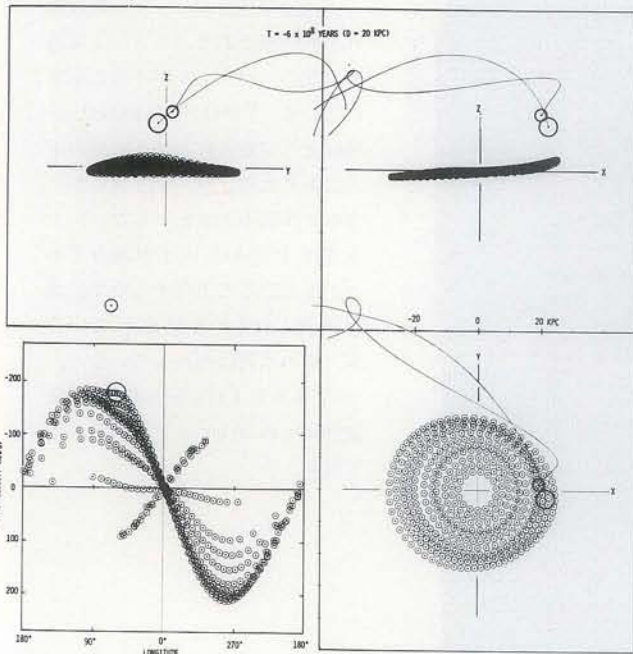
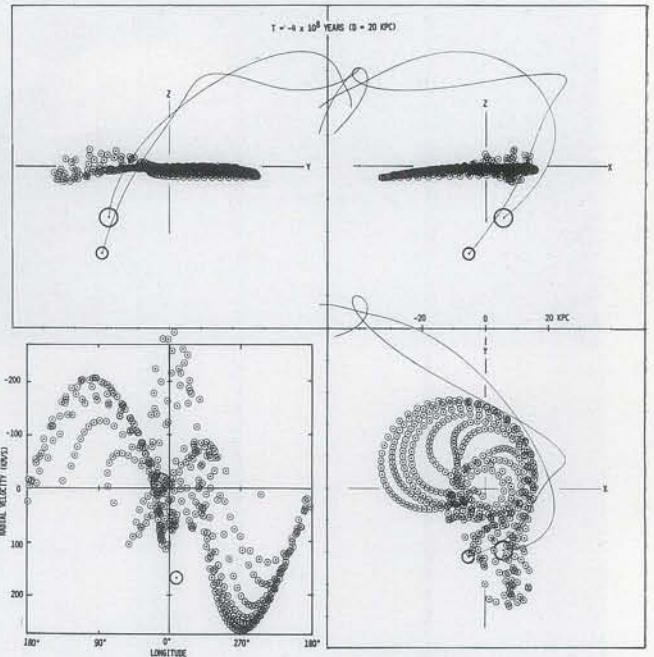


近銀点距離 $D=30$ kpc (B_4 , 図 5(c), 205 頁) で大小マゼラン雲が公転したときの銀河系の変形。“たわみ”と、へりの方で発達する 2 本の渦状腕に注目されたい。各左下の図は銀経に対する、太陽から見た視線速度を示す。

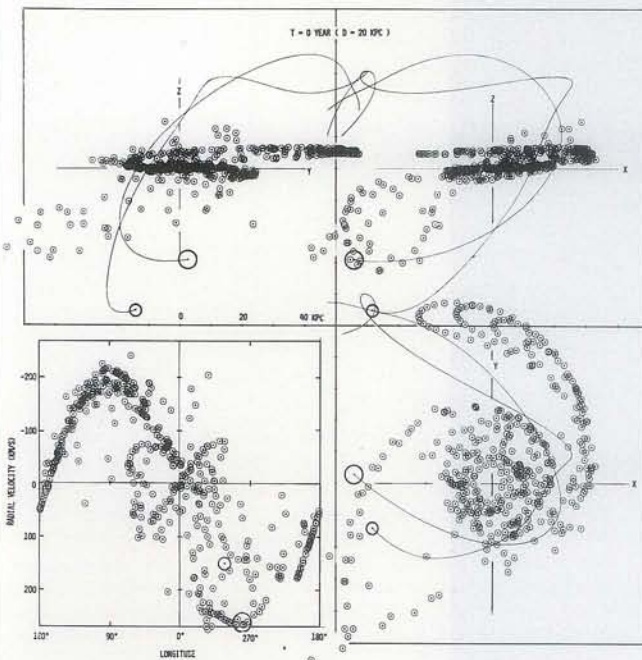
小マゼラン雲 (本文 203 頁記事参照)



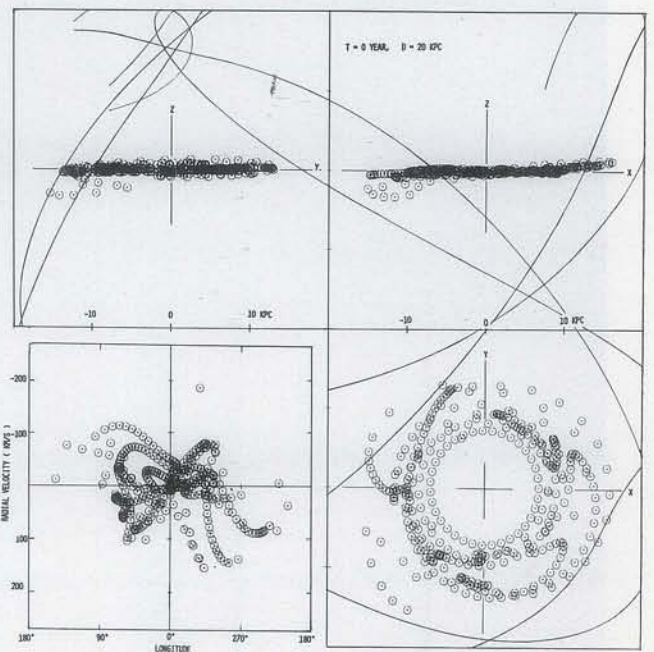
2-a



2-b



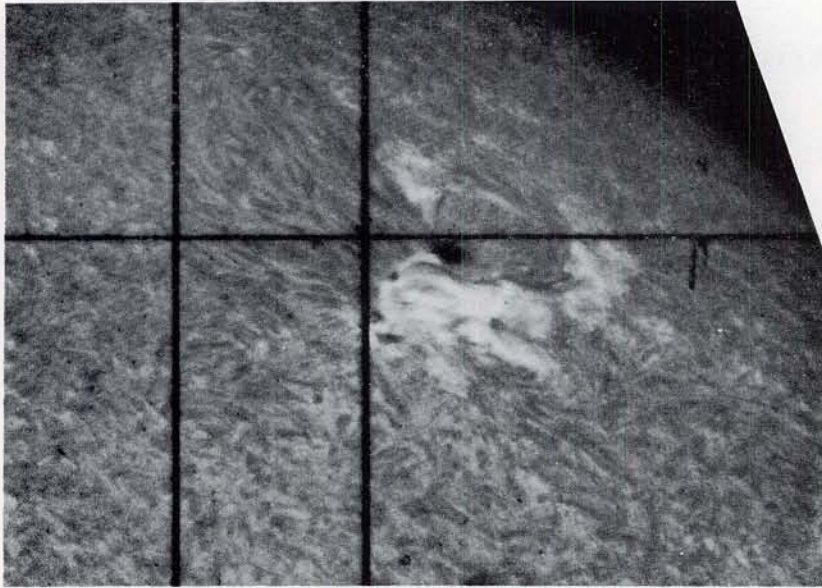
2-c



2-d

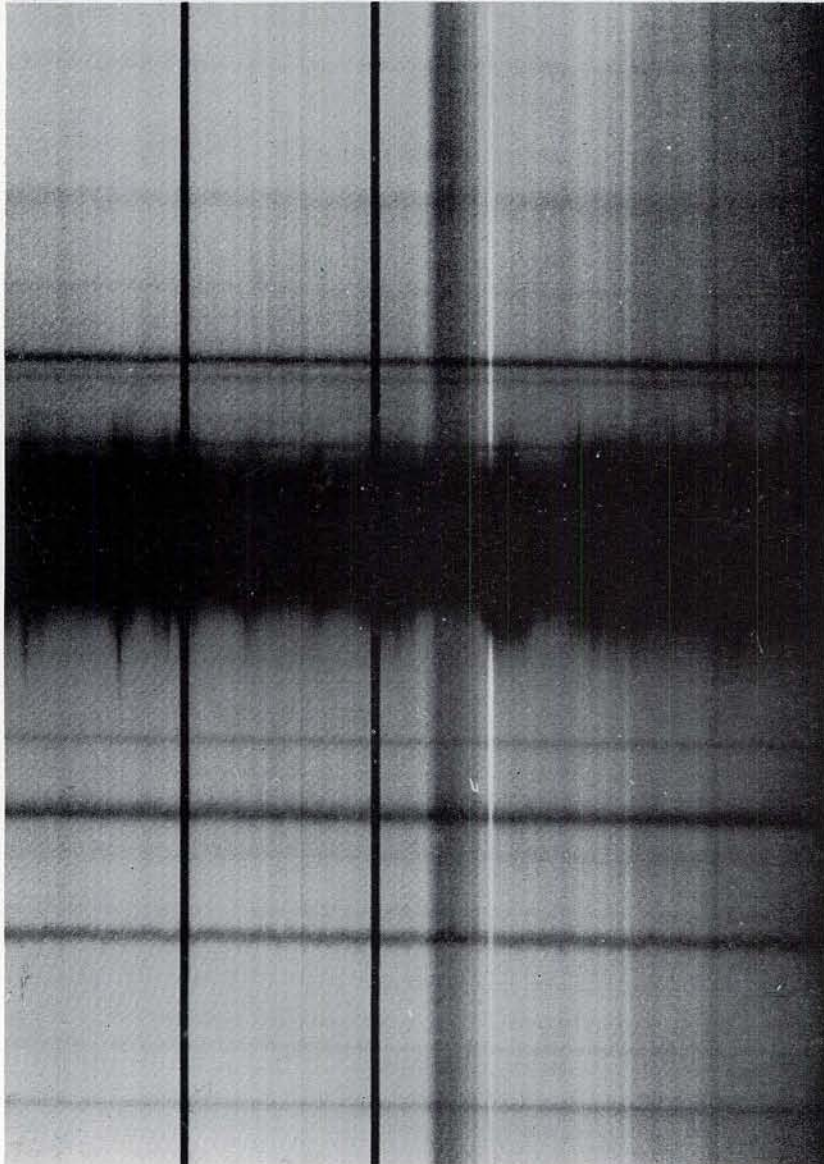
(a)-(c) $D=20$ kpc (A_2 , 図 5(a), 204 頁) に対応する銀河系の潮汐変形。ゆがみが激しく、速度場が大きく乱れる。
 (d) 太陽近傍 (中心から 7-13 kpc) のテスト粒子の様子を拡大したもの。

太陽面に現われた “ひげ (moustaches)” の分光写真



← 分光器のスリット

上図は分光器スリット上の太陽 H_{α} 単色像であり、スリットを通った光のスペクトルが下図に示されている。“ひげ”は線幅の広い輝線として見られるが、彩層の下方にあるため、 H_{α} 吸収線にかくされて輝線中央はわからない。大きさは 1000 km 以下の塊りであり、黒点近くに出現するので磁場と関係したものと思われるが、その本質はわかっていない。1975 年 8 月 1 日午前 6 時 20 分乗鞍観測所の 25 cm コロナグラフにて撮影。



← 6563 Å (H_{α})

λ
↑

← 7万 km →

↑ ひげ